

春日
神
殿
饅
馬

和装本

ケ 5

44

51





春日神殿餽馬畫

後三條院朝之畫也画之於左右戸人呼曰
每有宮造使舊様画至於今云
刺都 自後

馬寮舍人



舌地當又六葉當云

相衣衣
附物

穿壳繩

附物

狩衣

立烏帽子

附物

手繩染終
仗組

杏葉衝

頭籠

面掛

八子

脈鈴

胸掛

杏葉

模蝶

鈴





主月

花翁翁

所物

之緒當

主月



春日新娘

一 従三従四従八従九従十従十一従十二従十三従十四従十五従十六従十七従十八従十九従二十従



左参

右参

白布

白布

白布

白布

左参

右参

白布

銀面

白布

腰帯

輪發

大滑

腰帯云有珠厄

白布





春日 神殿 饒馬画

一 馬口附の若用いかり衣より貫通して中衣より衣

より貫通花形或は樂意の敷つけらるる付て中

衣の中は付承るる是を中衣と云ふ梅の白さ

を赤翰の類やく西丹やく角令の色なるもの小

西丹やく

一 貞女音附物牡丹の花菱のをあらに作り花を

合布やくくくく物とては形多付物い時やく

中人志好やく汎流小物い物名定法はやく

物やくくくく樂意の敷も紙事とやく作り彩色

一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目

一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目

一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目
一 袴の裏の縫い目 衣腹の縫い目

此の正徳の中頃の袋に記してありし中巻の
おれゆく西暦下巻の中小花形共々あるおま
蒲と中巻は清浄の中巻高麗のちやうど一
らの中巻

貞文昔根面を根ゆく作り方あるは中巻感
神ゆく作。右巻諸部日記ゆく西暦下巻
高麗形の中巻ゆく作。色この中巻ゆく色
なま

一首の中のとあるもの首ありし中巻は清
中巻ゆく作。中巻ゆく作。中巻ゆく作。

貞文昔諸部日記小頭迄を中巻の中巻
の色は玉を賞する中巻ゆく作。長巻人余あり
之頭正風澤の中巻ゆく作。中巻ゆく作。中巻
元正ゆく作。櫻格とあるは又中巻ゆく作。玉
中巻ゆく作。佩玉の中巻ゆく作。中巻ゆく作
中巻ゆく作。

一 中巻ゆく作。

貞文昔袷ゆく作。中巻ゆく作。不洋形の中巻
中巻ゆく作。中巻ゆく作。

一 中巻ゆく作。中巻ゆく作。中巻ゆく作。中巻ゆく作。

右の尾首を入く旨也此尾袋の尻衣小蝶
れりある也さすへ旨しと云ふ蝶の男
なるもの即信譽の尻衣の上小の物
て尾袋の物なり

一尾袋にうらむる中は

身文若尾袋の物なり此の云事不詳なり

一尾の上小雲珠うらぶをいひかゝりしる雲珠の
のりいりしる物なり

身文若命の物なり此の物なり

身文若命の物なり此の物なり

一むらゝの物なり此の物なり

右の物なり此の物なり

中なる物なり

身文若命の物なり此の物なり
けりいりしる物なり此の物なり
の物なり此の物なり

一鈴を新しきつゝしる物なり此の物なり
て中なる物なり

身文若命の物なり此の物なり

一鞍、尾袋の物なり此の物なり

身文若命の物なり此の物なり

お祈りもさうの御座りなすゝめなすゝめ
と云い御座りなすゝめなすゝめ

一馬の背もさうなすゝめなすゝめ
お祈りなすゝめ

一 貞文昔おあや一草やへんうらやりの秋
お祈りなすゝめ

一 大あめの上おあやける御座りなすゝめ
お祈りなすゝめ

貞文昔御座り又脊無もさう御座り表やして表に布
之中お東席に入也 貞文は東席に坐り表に布を被るなり之カラ
カラハロト云是ノ下階ヲト云

一 何れも御座りなすゝめなすゝめ

一 貞文昔おあや御座りなすゝめ
お祈りなすゝめ

貞文昔もさう御座りなすゝめ
右へうの右へ通と云う御座りなすゝめ

ら右へ今も絶くお祈りなすゝめ
白石先生と云う御座りなすゝめ

貞文昔御座りなすゝめ
お祈りなすゝめ

一 御座りなすゝめなすゝめ

古事には必る事と法徳の今いふくかこ
なりきすらあり今う小記に春日神殿に衣の
く小画ありは信後之系凡の所なくかく其の
より一信徳の所なりは信徳の所なり一信事徳
体容と蒙り親忌不女尊なり

貞文著師子、古代著客来禊の時逆の馬小
と用又御禊所幸也其系の使と常用之也
時の用小立る事と相ふ

同 常政 貞文雅文也

125-126 常政 貞文雅文也

